

自然博物館
ニュース

A·MUSEUM

vol.11



ア・ミュージアム

ミュージアムパーク

茨城県自然博物館



自然と遊ぼう ーサンデーサイエンスー

毎週日曜日、平日は静かな博物館1階のスタディルームが、自然の遊び場に様変わりします。それは、『サンデーサイエンスー楽しい体験教室ー』が行われている時です。

サンデーサイエンスは、自然に関する事をテーマに、実験・観察や工作を通して、遊びながら身近な自然への関心を深めていただこうとするものです。

2月のサンデーサイエンスのテーマは「どんぐりで遊ぼう」です。どんぐりを使ってコマや、やじろべーなどを作るのでですが、このテーマに対する関心が高かったためか、3回の実施で130名の方が参加されました。家族の参加が多いのもサンデーサイエンスの特徴で、親子で力を合わせて制作した素晴らしい作品が、数多く完成しました。

教育普及活動のひとつでもある、遊びながら自然を学ぶこのサンデーサイエンスが、自然に興味を持つことへの一助になれば、と考えています。

工作だけではありません。どんぐりの種類を調べているところです。

第9回企画展

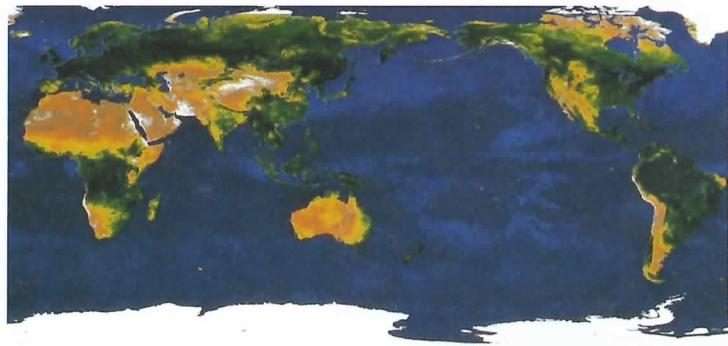
宇宙と人類の未来

—かぐや姫から宇宙船まで—

1997年4月26日(土)~6月15日(日)



宇宙から見た地球



世界の植生▲



地球観測プラット▼
フォーム技術衛星
「みどり(ADEOS II)」

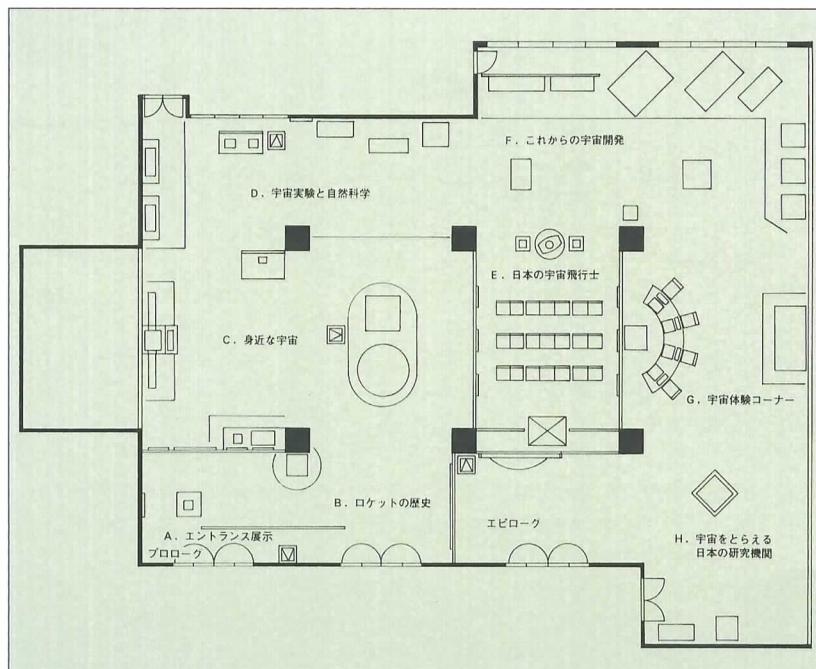


月面基地（想像図）▲
▲印写真提供：宇宙開発事業団

宇宙から見た地球はなんて美しいのでしょうか。36年前の1961年、世界で初めて宇宙を飛んだユーリ・ガガーリンは、宇宙船から地球を見て「地球は青かった」という言葉を残しました。また、月へ向かうアポロ8号から送られてきた、青く輝く地球の映像は、生命に満ちあふれる地球のすばらしさを、多くの人々に印象づけました。

現在私たち人類は、いろいろな人工衛星をとおして、宇宙からこのかけがえのない地球の姿を見るすることができます。中でも、資源探査衛星から送られてくる映像には、地球環境の変化がはっきりと映し出されています。オゾン層や熱帯林の破壊、砂漠化など、生命であふれる地球も、今、いろいろな危機にさらされています。このように人類は、地球的規模の環境問題を、地球上の国境を越えて考えることができます。

さらに人類は、人工衛星による地球環境の観測にとどまらず、宇宙ステーションの建設計画など、宇宙への進出を目指しています。今回の企画展をとおして、宇宙開発がもたらす大きな夢と可能性、そして地球の大切さを考えていただければ幸いです。



企画展記念講演会

講演 「宇宙への夢と宇宙開発」

講師 的川泰宜先生

(文部省宇宙科学教育研究所教授)

日時 5月3日(日) 午後1時より

場所 博物館3階映像ホール

(事前に申し込んで下さい。参加者は入館無料になります。)

的川先生は、日本宇宙少年団理事、横浜こども科学館理事をはじめ、TBS子供電話相談室の解答者もされており、宇宙のことについてとても詳しい先生です。この講演会の中に質問コーナーを設けます。宇宙のことやロケット・人工衛星のことなどについての質問を、事前に往復はがきで受け付けます。

●開館時間 9時30分~17時 (入館は16時30分まで)

●休館日 毎週月曜日

ただし、月曜日が祝日の場合は、翌火曜日が休館となります。

●入館料 小・中学生 140円(70円)

高校・大学生 430円(280円)

一般 710円(570円)

※()内は20名様以上の団体料金

研究ノート◎茨城県太平洋岸から発見された鯨類化石(2)

●水戸市から産出した鯨類化石

国立科学博物館に「サカマタ」と記載されている標本が所蔵されています。明治10年に茨城県から紹介があり、水戸市常磐町で発見されたと収蔵記録に残っているものです。化石は、下顎骨先端部に並ぶ3本の歯と、遊離した1本の歯になります。歯の形態からマッコウクジラ科に属するものと考えられます。現在の常磐町周辺には、新生代第三紀中新世の地層が分布しており、ほぼ同じ時代のものと考えられるナカマチクジラと比較するうえでも重要な標本です。



水戸から産出したマッコウクジラ類

●那珂町から産出した鯨類化石

ナカマチクジラ

1984年に那珂町額田地内の崖から発見されたハクジラ類です。調査により130×50×30cm大の母岩が掘り出され、クリーニングにより吻部および下顎骨の一部、歯20数個、指骨2点の化石が得られました。保存が良好な歯は、長さ13cm、前後径4.8cmと大きなものです。産出状態から同一個体に属するものと考えられています。

形態的な特徴からマッコウクジラ科に属するものと考えられ、水戸市から発見された4本の歯は、これと同一種と思われます。

産出した化石の年代は、微化石(珪藻)の調査により1,290~1,350万年前の中期中新世とされています。



ナカマチクジラ産出状態



ナカマチクジラ吻部



ナカマチクジラ調査状況



オオアライクジラ
クリーニング前の状況（背側より）

●東海村から産出した鯨類化石

トウカイクジラ

1986年に東海村須和間の宅地裏の崖から発見されたヒゲクジラ類です。産出した部位は吻部、肋骨1本です。この化石を発掘したときに鱗脚類(アザラシやオットセイなどのなかま)やサメの歯と一緒に発見されました。

発見された鯨類化石を現生のヒゲクジラ類のニタリクジラと比較したところ、発見された部分は頭部の先端にあたる前顎骨、上顎骨であることがわかりました。

残念ながら種類の決め手となる頭骨後部は、以前に行われた崖の工事によって無くなっていました。

産出した化石の年代については、鮮新世と考えられています。



トウカイクジラ産出状態



トウカイクジラの吻部

●大洗町沖から産出した鯨類化石

オオアライクジラ

1987年に大洗町沖南東約7km、水深約30mの所から底引き網で引き上げられた化石です。発見された化石は頭骨の後頭骨、冠状骨、鱗状骨、前頭骨、鋤骨の一部、左右鼓室胞、周耳骨後突起です。



クリーニング後のオオアライクジラ（背側より）



クリーニング後のオオアライクジラ（腹側より）



オオアライクジラ 左鼓室胞（右）
イワシクジラ現生種 左鼓室胞（左・中央）



オオアライクジラ産出部位

野外紹介●春の草と木



4月の「花の谷」

樹木については、カシやツバキなど葉に光沢をもつ木を集めた「照陽樹のコーナー」、イチイやマキなどの「針葉樹のコーナー」、科学的・文化的に類似する樹木を対にして植栽した「日本の木と外国の木」、花の咲く樹木（園芸種を含む）を集めた「花木の広場」があり、葉・幹肌・樹形などを比較しながら観察できます。

草花類では、キンランやクモキリソウなど最近数が減りつつある貴重な野生種が「つたの森」に見られます。また、スイセン・ルリカラクサ・コスマスなど園芸種の花たちが、「花の谷」を色鮮やかに埋めつくします。

野外のほぼ中央にある「とんぼの池」では、昆虫などの動物ばかりでなく、菅生沼や霞ヶ浦に生育する植物「湿地や水生の植物」が見られます。

これらの豊かな自然を楽しく観察して
いただきため、植物のネイチャートレイル「草と木のコース」(全長約1.6km)を設け、観察のしかたを記した10個のトレイルの看板、または当館学芸員による野外ガイドツアー(草と木)が皆さんをご案内しております。植物に関する興味深いクイズも計20問設置しております。

ここに生育する400種を越す植物たち、彼らの造った酸素を胸一杯吸いながら、季節を、植物を存分にお楽しみ下さい。（教育課：的場）

A close-up photograph of a yellow flower, likely a Mimulus, showing its petals and center.

A close-up photograph of several bright yellow flowers, likely orchids, growing on a plant with long, narrow green leaves. The flowers have a distinct yellow color and a slightly downward-curving shape.

キンラン

A photograph of a large tree, possibly a Magnolia, in full bloom. The branches are densely covered with numerous small, white, star-shaped flowers. The tree is set against a clear, pale blue sky. The lighting suggests it might be late afternoon or early morning, as the sun is low and creates long shadows.

コブシ

A close-up photograph of a green, pendulous inflorescence of a Orchis anthropophora (Human-shaped Orchid). The spike is densely packed with numerous small, greenish-yellow flowers, each with a distinct human-like face. The flowers have long, thin, protruding stamens. The background is dark and out of focus.

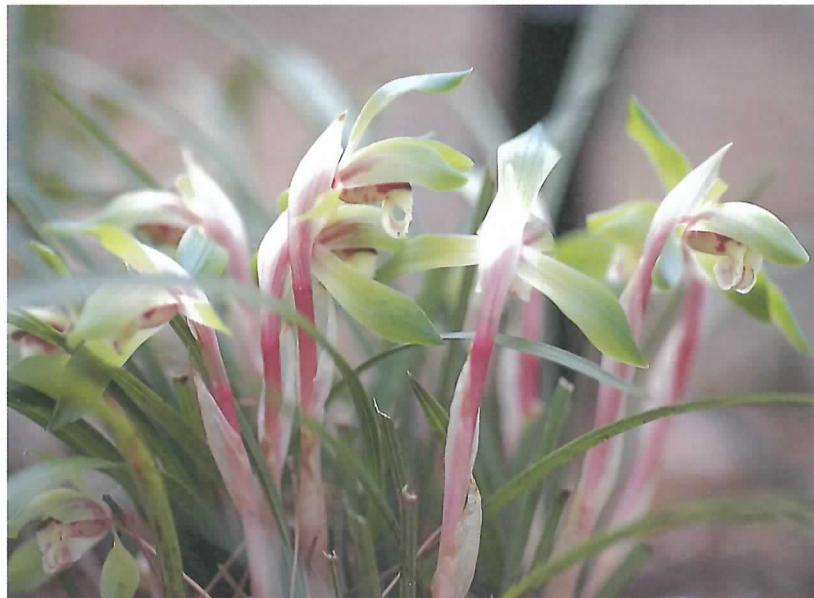
クモキリソウ

16.4ha、当館の敷地は、博物館としては日本一の広さを有します。その野外には昭和30年代半ばまで薪炭林として利用された雑木林「つたの森」・「昆虫の森」・「どんぐりの森」があり、当地方の普通の林「平地の陽樹林」が観察できます。特に「つたの森」には観察用の小道があり、四季の林内の様子を身近に見ることができます。さらに、まだ小さな林ですが、当地方を代表するシイやカシ類の林「照陽樹の極相林」、鹿島神宮等に見られる平地のモミの林や亜高山帯のコメツガやシラビソの林「針葉樹の極相林」筑波山やハ溝山などのブナ・ミズナラ等の林「夏緑樹の極相林」、シラカンバやダケカンバを主とする林「山地・亜高山の陽樹林」、ハイマツ等の林「高山付近の植物」等、日本を代表する林を設けています。



歳時記●春を告げるシュンラン

柔らかな陽の光に誘われて、風のない穏やかな早春の雑木林を歩くと黄緑色をしたシュンランに出会うことがあります。まだ冬枯れの色合いが残る林の中での出会いは、自然の中の宝物を見つけた思いがします。このシュンランは、日本産の最もポピュラーな蘭で、主に乾いた落葉樹林の林床に生えます。県内でも、昔は普通に見られ、子どもたちの遊びに使われた花でしたが、最近は見つけるにも苦労するようになりました。



和名は「春蘭」で、早春に開花する蘭ということに基づいています。俗名ジジババと呼ばれ、この名前の方が郷愁を持つ方が多いかもしれません。常緑の多年草で線形の葉が束生します。

花や実がついていない時期は、同じ様な条件の場所に生えるヤプラン（ユリ科）に似ていますが、シュンランの葉には縁に細かな鋸歯があり、手でなでるとざらざらした感触があります。

花芽は前年の秋にはできていますが、半透明な膜質の鱗片に保護されています。この花にはほのかな芳香があり、塩漬けにした花を吸い物に入れたり、お湯に入れておめでたい席の蘭茶とされたりします。

写真のシュンランは当館の野外に生えていたもので、花を10個もつけた、とても見事なものでした。開館以前からこのシュンランが花をつけるのを楽しみにしていたのですが、やっと花が咲き、喜んで写真を撮った3日後に、穴だけ残して姿を消してしまいました。美しさに心を奪われた方がそっと持ち帰ったのだろうと思いますが、蘭の根は菌と共生をするので、はたして根づいたかどうか心配です。やはり野の花は、野にあって真の美しさを表し、訪れる多くの人々の心を癒すものだと思うのですがいかがなものでしょう。

（教育課：中山）

シュンラン（ラン科）*Cymbidium goeringii*

花期 3月～4月 分布 北海道～九州

収蔵品紹介●手稻石 *Teineite* [組成： $\text{CuTeO}_3 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$]

世界には3,600種類以上の鉱物がありますが、その中には日本で初めて発見され、和名をもとに世界で通用する英名が付かれているものがあります。

この手稻石もそのような鉱物の一つで、手稻鉱山（北海道）で1961年に発見された極めて珍しい鉱物です。この鉱物にはテルル(Te)という元素が多く含まれていますが、この元素は、私たちの身の周りにある普通の岩石には平均0.000002%程度しか含まれていません。しかしマグマの運動が活発な地域では、地下でマグマに含まれていた水が数100°Cの熱水として周りの岩石の割れ目を流れ、普通はほとんど岩石には含まれていない元素が、鉱脈として濃集することがあります。手稻鉱山の鉱床には、金・銅・鉛・亜鉛・マンガンなどに伴って、一部にテルルが濃集しています。手稻石は、このうちテルルと銅に富む部分が変質を受けたときに、岩石のすき間に二次的にできた鉱物で、鮮やかな青色が印象的です。

自然博物館には、故南部秀喜氏が収集した手稻鉱山産の鉱物標本約210点が収蔵されています。その多くには、標本のスケッチに加えて、標本が採集されたときの周りの様子や標本自体の詳しい記載が添えられており、手稻鉱山が閉山してしまった現在、これらは学術的に極めて貴重な標本となっています。

ところで、この手稻石のように日本で初めて発見され、国際鉱物学会連合（IMA）において認定された“新鉱物”は約75種ありますが、自然博物館にはそのうち約半数の鉱物が収蔵されています。その多くには発見された場所にちなんだ名称（石川石[Ishikawaite]）や、発見者の恩師などにちなんだ名称（長島石[Nagashimalite]）などがつけられています。現在のところ、茨城県内で発見された新鉱物はありませんが、いつの日か「茨城石」という鉱物が発見されるかもしれません。

（資料課：小池）



レポート○ミュージアムボランティア



手話の講習会（自主研修会：障害者への対応）

当館のボランティア制度は、平成6年11月の開館と同時にスタートしました。当時は、メンバーも41名と少なく、活動メニューもあまり多くありませんでした。しかし、現在では90名を越えるボランティアの方が、メニューに応じて9つのチームを編成し、いきいきと活動しています。

当館のボランティアのユニークな活動のひとつに自主研修会があります。これは、ボランティアの方が自ら企画して研修会を開いているもので、講師もほとんどボランティアの中から出てきます。ほぼ1ヶ月に1回の割合で実施されるこの研修会の充実ぶりを見ていると、当館のボランティアの方々が、いかに前向きな姿勢で様々な活動に取り組んでいるかがよくわかります。

ボランティアは、18歳以上で博物館活動や自然に興味のある方なら、どなたでも申し込むことができます。どうぞお気軽にご応募下さい。

《チーム紹介》

- 展示解説：館内展示のポイントになるところをスポット的に解説
- D.P.：ディスカバリー・プレイスのミクロの観察コーナーにおいて、顕微鏡やマイクロスコープを用いての観察指導補助
- 野外活動：自然発見工房において観察器具の貸出・植物化石のクリーニング、野外ガイドツアーの指導補助等
- 海底探検：潜水艇いばらき号における来館者の整理
- 図書：図書の整理及び利用案内
- 友の会：友の会行事の企画・運営、友の会機関誌マンモス通信の編集・発行
- イベント：サンデーサイエンス、自然観察会、自然教室、自然講座における指導補助・受付等
- 調査・資料：博物館野外における昆虫及び植物の調査・標本の整理、スライドの整理等
- 研修：自主研修会の企画・運営、機関誌ボランティアフォーラムの編集・発行



化石のクリーニング指導補助
(自然発見工房)



友の会主催事業の補助
(館長クリスマスレクチャーの受付)

スポット○小貝川ふれあい公園



5月のポピー畠（奥の建物はネイチャーセンター）

下妻市東側を流れる小貝川の水辺に広がる自然豊かな公園です。公園の中心にある国蝶オオムラサキを型どった「ネイチャーセンター」では、オオムラサキや小貝川周辺に棲む生物について、パネルや標本で展示しています。

屋外には5ヘクタール（5万m²）の花畠があり、四季折々の花を楽しむことができます。特に5月は、500万本のポピーをはじめ、かすみ草や矢車草が咲き乱れます。この時期に行われる「フラワーフェスティバル」は、ジャンボ豚汁などイベントが盛りだくさんです。今年は5月26日から開催される予定です。

問い合わせ 公園管理事務所 0296-45-0200

コラム by director NAKAGAWA ○口ダン

「ぼくたち 盲人にも ロダン をみる権利がある」。これは東京都渋谷区にある視覚障害者のための美術館「TOM」の入口に掲げられているレリーフのことばです。

この美術館は、このことばを確実のものとするために“触って見る美術館”として多くの彫刻作品を展示し、視覚障害の方々をやさしく迎え入れています。私も昨年の秋に同館を訪れましたが、数人の視覚障害の方が、顔を作品に近づけ、手で触れながら熱心に鑑賞している姿が印象的でした。

「いつでもどこでも誰でも自由に選択して学習できる社会」を生涯学習社会と呼び、世界がその方向をめざしています。この美術館と同じように、自然博物館もすべての人に開かれていることが大切だと思います。

私たちもこのことをふまえ、障害の方々のために何ができるか、を今年の重要なテーマとして取り上げていく予定です。



トピックス●(12月～2月)

1000回達成ノガイドツアー 2月6日(木)

ガイドツアーは、5つの展示室を、ミュージアムコンパニオンが解説しながら、ツアー参加者をご案内するものです。原則として1日3回、参加者の状況に応じて実施しています。

このガイドツアーが、2月6日に1000回目を迎えました。この時点での参加者は、のべ12,574人です。記念の1000回目に参加されたのは、千葉県松戸市にお住まいの金田治子さん他11名の方です。参加された方には、ガイドツアー終了後、ミュージアムコンパニオンから記念品を差し上げました。



視覚障害者のための特別展示 12月9日(火)～15日(日)

12月8日の「障害者の日」にあわせて、視覚障害者を対象とした特別展示を、セミナーハウスで開催しました。隕石や化石、動植物のはく製や模型など自由に触れるもの、植物のにおい当てや動物の鳴き声クイズなど約200点を展示しました。会期中のべ161名の方が見学に訪れました。

見学された方たちは、初めて触ったラクダの体の大きさや、ザラザラとしたサメの皮膚に大変驚いていました。また博物館ボランティアや学芸職員、ミュージアムコンパニオンによる展示解説に、熱心に耳を傾けていました。

第2回押し花コンクール結果発表

今年2回目を迎えるこのコンクールには応募者46名から96点の作品が出品されました。厳正な審査の結果以下の方々が入賞されました。おしくも入賞を逃したすばらしい作品もこの他に多く見られました。なお、敬称は省略させていただきます。

- 最優秀賞 平島 優花 「花のジュータン」
- 優秀賞 花形美恵子 「山里の秋」
- 優秀賞 柴 マサ 「秋の野」
- 館長賞 森泉 弘子 「聖夜」
- 館長賞 増田 光子 「日本の四季」
- 副館長賞 染谷 幸子 「花束・野の花ハーモニー」
- 副館長賞 青木 栄 「会津高原の秋」
- 特別賞 山口八重子 「夜桜」
- 特別賞 野口 愛子 「からすうりの輝き」
- 特別賞 横村 洋美 「ほら、北風が・・・」



最優秀賞「花のジュータン」
平島優花

※今回は観覧者及び応募者の方々からいろいろなご意見をいただき、ありがとうございました。皆様のご意見を総合しますと、植物の美しさを再認識し大切にしていこうという当館の趣旨と同様であることがわかりました。

今後改善を重ねながら、よりよいものにしていきたいと考えています。

同時に展示された〈押し葉のしおりの部〉は11月のサンデーサイエンスの参加者が作成された作品です。こちらの方の入賞者は以下のとおりです。

- ◆未就学の部 風間智香 小林郁夫 江原雅人 中村淳 中里彩香 鈴木真美
- ◆低学年の部 風間あやの 中村香奈子 菖塚正人 黒田渉 坂元優太 堤典子
- ◆中学年の部 辻見有紀 藤隼也 高野晋平 横島菜津季 皆川尚美 葛谷由布子
- ◆高学年の部 藤川真紀 入江芳 木原道子 古谷友美
- ◆中学校の部 飯野由美 松井朋子
- ◆一般の部 中村吉男 石橋道子 中畠明美 福田和子 黒田裕之 飯野和子 森田秀明

本物はどれだ!

—複製品(レプリカ)の見分け方—

平成9年1月のご意見承り箱の投書に、「化石の展示が、本物なのか複製品(レプリカ)なのか分かりにくい」というご意見がありました。そこで今回は、その見分け方を紹介します。

展示パネルや展示ラベルに表示されている、*印がレプリカの証拠です。レプリカといっても貴重な博物館資料です。これを参考に、じっくりと観察してみませんか。

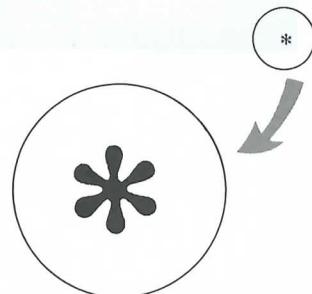
ご意見承り箱は、1階恐竜ホールに備えてありますので、気がついたことがありましたら、ご意見・ご要望など何でもお寄せください。

ティノニクス

Deinonychus antirrhopus

中生代白亜紀

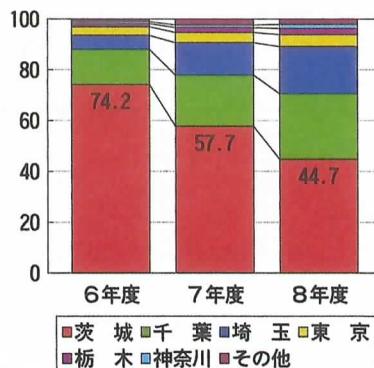
◆アメリカ合衆国



来館者アンケート調査報告

開館当初の平成6年11月から始めたアンケート調査も、8年度で3年目を迎えました。平成9年2月の調査終了時点で、のべ4,491人の方のご協力をいただきました。この紙面をお借りしてお礼申し上げます。

調査結果の一部を報告いたします。回答者の都県別は、下記のグラフをご覧になってください。隣接県の、千葉・埼玉からの来館者の増加が目立っていることがわかります。また、再来館者(リピーター)の増加も著しく、6年度は12.1%でしたが、8年度は44.1%という高い割合を占める結果となりました。いつも来ても楽しめる博物館を目指して、今後も努力して参りたいと思います。



インフォメーション(4~6月の行事)

自然観察会

4月27日(日)10:00~

『春植物の観察』(御前山)

[小学生以上が対象です]

5月25日(日)10:00~

『笠間盆地の自然と岩石』

[小学4年生以上が対象です]

6月22日(日)16:00~(予定)

『夜の森の動物たち』(筑波山)

[高校生以上が対象です]

*集合場所・定員は観察会ごとにかわ
ります。

自然講座(定員40名)

6月1日(日)13:00~

『菅生沼の生き立ち』

[中学生以上が対象です]

自然教室(定員40名)

4月12日(土)10:00~

『菅生沼の春の生き物たち』

5月10日(土)10:00~

『草花で遊ぼう』

6月14日(土)10:00~

『岩石から化石を取り出してみよ
う』

[小中学生が対象です]

[各観察会等への申込方法]

2週間前までに電話で申し込んで下
さい。なお、希望者多数の場合は、抽
選を行います(講座は先着順)。

ミュージアムパーク 茨城県自然博物館
TEL 0297-38-2000

サンデー・サイエンス【楽しい体験教室】

月ごとにいろいろなテーマで、毎週日
曜日にディスカバリー・プレイス内のス
タジルームで実施しています。

観察や実験、工作などの体験をとおし
て、楽しみながら自然への関心を深める
機会です。

テーマ

4月『花のつくりをみてみよう』

5月『昆虫のちぎり絵をつくろう』

6月『化石のレプリカをつくろう』

時間 午前の部 10:30~12:00

午後の部 14:00~15:30

受付 開始時間の20分前から、スタディ
ルーム前で行います。希望者多数
の場合は抽選を行います。

えいが会(定員約300名)[講堂・映像ホール]

4月20日(日)『みなしごハッチ』

5月4日(日)『竹取物語』

6月15日(日)『アポロ13(サーティーン)』

上映時間 14:00~ 入場無料

自然なんでも相談

自然についてわからないこと、ふし
ぎだな、と思っていることなど、なん
でも気軽にご相談ください。

相談方法 博物館あてに質問を郵送す
るか、直接ご来館ください。

相談日 4月13日(日)

5月11日(日)

6月8日(日)

場所 ディスカバリー・プレイス観察カウンター
時間 14:00~16:00

4月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

5月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3			
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

6月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

■は休館日です。

[交通案内]



●常磐自動車道、 谷和原ICから約20分



次回企画展

「アマルガサウルスの棘突起はなぜ長い」

—アルゼンチンの恐竜と自然—

平成9年7月5日(土)~9月15日(月・敬老の日)

ご利用案内

[開館時間]

午前9時30分から午後5時まで

(入館は午後4時30分まで)

[休館日]

●毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)

●年末年始

●館内消毒による臨時休館

(12月中の10日間:予定)

●4月29日(火・みどりの日)

●6月5日(木・環境の日)

・野外スタンプラリーなどが行われます。

[無料開放日]

[鉄道・バス]

(水戸・東京方面から常磐線利用の場合)

(東武野田線) (茨城急行) (徒歩)
JR柏駅 24分 愛宕駅 20分 自然博物館入口 10分 博物館 (54分)

(常総線) (関鉄バス) (茨城急行) (徒歩)
JR取手駅 30分 水戸駅 20分 辺田三叉路 10分 自然博物館入口 10分 (1時間10分)

(笠間・下館・結城方面から水戸線利用の場合)

(常総線) (関鉄バス) (茨城急行) (徒歩)
JR下館駅 55分 水戸駅 20分 辺田三叉路 10分 自然博物館入口 10分 (1時間35分)

[編集後記]

寒い寒い?冬(今年は、ほとんど雪は
降りませんでした)が過ぎ、野外が花
と緑で彩られる、自然博物館の季節がや

ってきます。

冬の博物館野外施設は、訪れる人も少
なく、その広さをもてあましていました。
しかし、春の到来とともに、生き物たち

が活動をはじめ、子供たちの歓声があふ
れる、活気に満ちた野外に戻ります。

博物館野外施設で、自然の息吹を感じ
てみませんか。(S・O)